

大学コンソーシアム京都

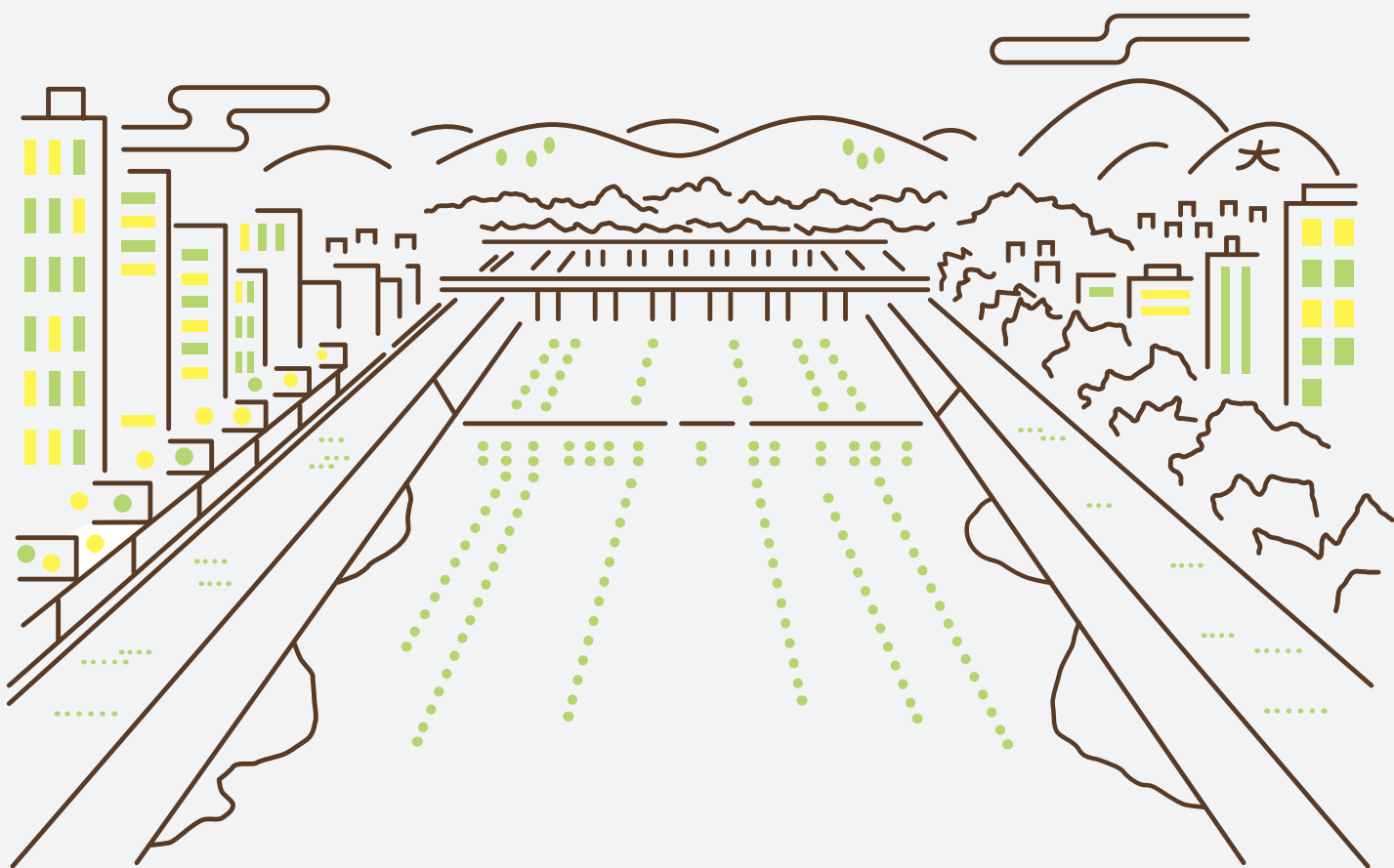
INTERNSHIP PROGRAMS

インターンシップ・プログラム

企業
団体様
ご案内

20年の実績

約50の大学等の学生が参加
大学教員によるきめ細かい指導



私たちは産官学地域連携のキャリア教育をめざしています。



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

私たちは産官学地域連携のキャリア教育をめざしています。

大学コンソーシアム京都のインターンシップ・プログラムは、就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」「高い職業意識の育成」「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした産官学地域が連携して行う教育プログラムとして、1998年度より全国に先駆けて開始しています。

単なる就業体験にとどまらず、実践から「働く」を考え、社会人基礎力を育成するカリキュラムを持ったキャリア教育として、受講生からも高い満足度を得ています。

大学コンソーシアム京都が窓口となって実施する

インターンシップの3つのポイント

その1 1998年から開始した豊富な実績

ここ数年は年間約250名の学生、200を超える企業・団体が参加しています。この豊富な実績を生かし、京都地域の産官学地域連携のキャリア教育の向上をめざしています。修了生は約10,000名となり、「社会人基礎力」を身につけた卒業生が社会で活躍中です。

その2 京都地域にある大学・短期大学の学生が参加

京都地域にある約50の大学・短期大学から、人文社会系・理工系・芸術系など多様な個性を持つ学生が参加しています。企業・行政機関・非営利組織の情報を幅広い範囲の学生に周知するとともに、様々な大学の学生と出会うことができます。

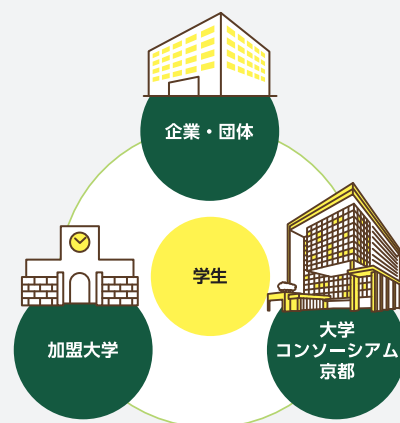
その3 大学教員によるコーディネート

加盟大学在籍の大学教員によるコーディネートで、学生の成長をトータルに支援します。実習の前後におこなう「事前・事後学習」では、教員がコーディネーターとして学生のサポートをします。ディスカッション等を通して実習の目的を明確にし、多様な実習先や学生の属性に対応した学習を実施します。この「事前・事後学習」により、より質の高い学生を受け入れることが可能となります。



公益財団法人 大学コンソーシアム京都

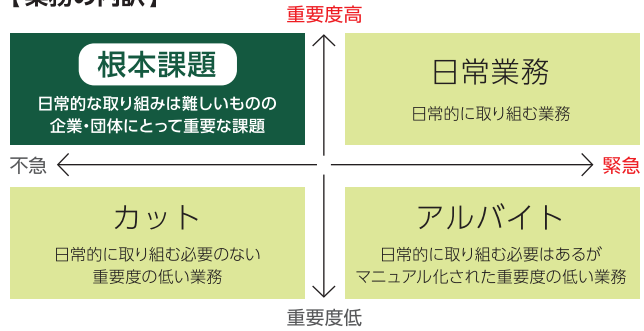
公益財団法人大学コンソーシアム京都は、全国に先駆けた大学間連携組織として、前身の「京都・大学センター」の設置から2020年4月に26年を迎えました。1994年以降、大学が集積する京都地域の特性を活かし、「単位互換事業」や「インターンシップ事業」、「SD・FD事業」などの基幹的取組に加え、「京都世界遺産PBL科目」や「障がい学生支援事業」、「学まち連携大学」促進事業、産学官のオール京都での留学生誘致・支援組織「留学生スタディ京都ネットワーク」の創設など、高等教育の環境変化に応じた先進的的事业にも積極的に取り組んでまいりました。近年では、少子化の進行による大学進学者の減少(2018年問題)や国における高等教育改革の推進など、高等教育を取り巻く環境は、大きな変革の中にあります。そのような中、2019年からは、地域コミュニティや経済団体、自治体との相互連携の強化に重点を置き、京都地域の大学・短期大学の「個性」と「特色」を活かした取組の展開により、多様な「学び」を求めるすべての人々の期待に応えてまいりました。今後は中長期的な視点からも取組を進め、社会をリードする人材の育成と「大学のまち京都」のブランド力向上を図り、京都地域全体の発展を目指してまいります。



受入企業・団体、学生の双方に満足度が高い仕組み

受入企業・団体における、日常的な取り組みは難しいものの重要度の高い課題を実習プログラムに組み入れていただきます。それにより、受入企業・団体にとっては**自社の「根本課題」への挑戦**が、学生にとっては**実務の経験**ができ、双方にとって高い満足度につながります。

【業務の内訳】



提供：三共精機株式会社 代表取締役 石川 武 様

実習生受入れのメリット

社内の活性化につながります!

実習生を受入れることで、指導を担当した社員の成長につながります。社内にいつもと違うメンバーがいることで、雰囲気刺激したり、リフレッシュしたりしてくれるかもしれません。

新しいアイデアに出会えます!

若い世代が求めるサービスや商品について情報収集できます。学生ならではの新しい視点による企画提案が期待でき、新商品開発や業務改革などに取り組む絶好のチャンスです。

自社のPR・広報につながります!

実習生は将来、顧客や協力者になる可能性があります。様々な大学・短期大学の学生が参加するので、商品や社名を学生に認知してもらうことにより、宣伝効果が期待できます。

自社の根本課題に取り組めます!

日常業務ではなかなか取り組むことができなかった自社の根本課題に取り組むきっかけとなり、新たな業務展開が期待できます。

大学等との新たな関係が広がります!

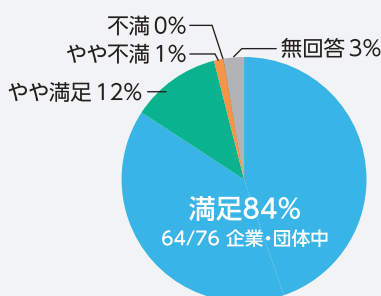
インターンシップを通じて、大学等との交流の機会が生まれ、産学連携の可能性が広がります。

社会と地域に貢献できます!

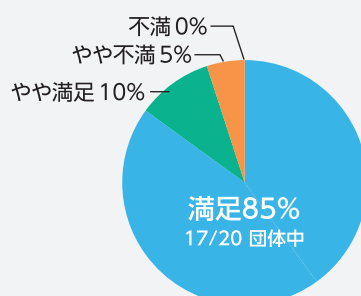
京都地域の学生の育成を受入先企業として支援することにより、社会的貢献となり、社会的イメージの向上を図ることができます。

多くの受入企業・団体でご満足いただいています。

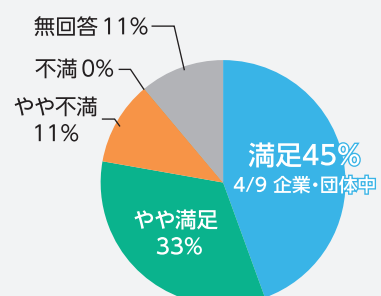
●インターンシップ・プログラム全体についてどの程度満足されていますか。 [2019年度インターンシップ・プログラム実施報告書]より



ビジネスコース



パブリックコース



長期プロジェクトコース

実習内容や期間に応じて 2種類のタイプからコースを設定できます。

学生に企業がアピールできる

ビジネスコース / パブリックコース

[実践就業型インターンシップ(夏期)]

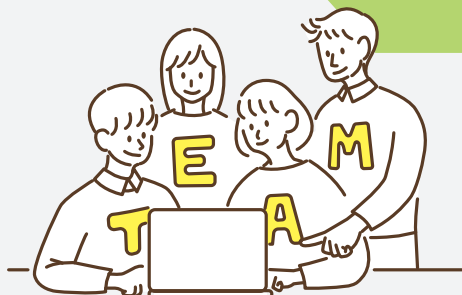


原則8月上旬～9月中旬に、企業・行政機関・非営利組織において2週間(実働10日以上)～1ヶ月程度の実習を行うコースです。[事前学習] ▶ [実習] ▶ [事後学習]という体系化された学習プログラムを通じて、実社会への理解を深め、社会性や職業観を身につけるとともに、実習後の大学生活における課題の整理と目標を明らかにすることを目指します。事前・事後学習では、ビジネスコースは業界・業種別に、パブリックコースは行政・非営利組織別にクラスを編成し、他大学の学生と共に、業界研究や実習経験交流、ディスカッション等を行います。

自社の課題解決につながる

長期プロジェクトコース

[長期課題解決型インターンシップ]



6月中旬から11月下旬の5か月間、企業・行政機関・非営利組織が提示するテーマの課題やプロジェクトに取り組むコースです。プロジェクトを通して、さまざまな角度から実社会を見つめ、現状を把握する力、課題を発見する力、その課題を解決する力を身につけることが目標です。受入企業・団体が実習生に提示したプロジェクトのテーマ(課題)に沿って成果重視の活動を行うプログラムです。

万全のリスク対策だから
受入れも安心です。

実習中の思わぬ事故や、機密漏えい、社員とのトラブルなど想定されるリスクを防止、軽減するために、保険への加入、リスクマネジメント講習の実施、三者(受入企業・団体、学生の所属大学、大学コンソーシアム京都)による協定書の締結をおこなっています。また、原則として交通費や給与の支給は必要ありません。傷害保険等については、大学コンソーシアム京都で加入します。

コーディネーターからのコメント COORDINATOR'S COMMENT

ビジネスコース 総合コーディネーター 同志社大学 政策学部 教授 多田 実

本財団のインターンシップは、初年度から一貫して「教育プログラム」を念頭に置いており、受講生が所属する大学それぞれにおいて、「授業」の一つとして、学部や学科のカリキュラム内に位置づけられています。そのため、受講生がこのプログラムを終えて自分の大学に戻ったとき、残りの大学生活をどのように送るべきなのか、そのヒントや示唆になるような(具体的には、残りの大学生活において、どのような科目を履修するのか、授業とは別に資格取得などにチャレンジするのか等々)新たな「気づき」を与えていただくような実習をご提供いただくことを期待しております。色々お手数をおかけすることになりますが、何卒よろしくお願いたします。





実習期間 8月上旬～9月中旬のうち、2週間～1ヶ月程度(実働10日間以上)

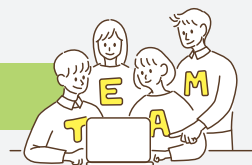
登録から実習終了までの流れ



実習プログラム事例

ビジネスコース (小売・販売)	ビジネスコース (商社)	パブリックコース (官公庁)
1日目 ・オリエンテーション	1日目 ・オリエンテーション・チーム分け	1日目 ・オリエンテーション、実習目標の共有
2日目 ・他社見学、店舗巡回同行	2日目 ・ビジネスマナー、コミュニケーション演習	2日目 ・職員の仕事理解、現地調査、施設見学
3日目 ・販売実習	3日目 ・提案書作成のポイントを説明 事前準備 (顧客の課題調査)	3日目 ・プロジェクトについてコラム原稿作成
4日目 ・販売実習	4日目 ・先輩社員と顧客訪問 振り返り、顧客情報の整理	4・5日目 ・地域イベント開催準備
5日目 ・販売実習	5日目 ・プレゼン資料作成 担当社員がオブザーバー参加	6日目 ・地域イベント参加・運営補助
6日目 ・課題発表の準備 状況確認のための面談	6日目 ・プレゼン資料作成 プレゼン練習、チームで対抗戦	7日目 ・中間報告会準備 (資料作成)
7日目 ・課題発表の準備 実態調査のための現場確認	7日目 ・顧客訪問 (営業実践) フィードバック、チーム討議	8日目 ・中間報告会 (前半振り返り)
8日目 ・課題発表の準備 進捗状況及び方向性の確認	8日目 ・お客様へのお礼状作成	9日目 ・期間限定事業の屋外撤収作業
9日目 ・課題発表の準備	9日目 ・実習成果のまとめ	10～12日目 ・街頭キャンペーン企画立案
10日目 ・社内向け成果報告	10日目 ・社内向け成果報告	13日目 ・街頭キャンペーン事前準備・資料作成
		14日目 ・最終日報告会準備
		15日目 ・最終日全体報告会、フィードバック

長期プロジェクトコース PROJECT COURSE



実習期間 6月中旬～11月下旬の約5ヶ月間

登録から実習終了までの流れ



プロジェクト例

企業の社会貢献事業(地域の魅力を発信)の企画・提案・運営

活動内容

地域の人々へのインタビューを通じて地域の魅力を発見し、SNSなどで発信することにより街の活性化を図る。
ポータルサイト・SNSの運営 / 地域向けイベントの企画・運営 / フリーペーパーの作成 等

スケジュール

6月(週1～2)	目標設定・活動スケジュール設定
7月(週2)	プロジェクトの開始 インタビューの練習など
8月・9月(週3程度)	プロジェクトの実行～完成 インタビュー活動の実施、地域活動への参加、フリーペーパーのコンセプト決め、作成
10月(週3程度)	プロジェクトの振り返り・プロジェクト・プレゼンテーションに向けた準備 フリーペーパーの配布、協力者様へのあいさつまわりなど





ビジネスコース

始めるきっかけは誰かの「なんとなく」でいい

三共精機株式会社 代表取締役会長 石川 武

当社は2006年から受け入れを始めましたが、きっかけは私の「なんとなく」でした。本インターンシップ・プログラムは、一般的な就職目的のそれとは異なり教育型です。学生にとっても企業にとっても「学び」の場であると同時に、思いきって何かを「試す」絶好の機会でもあります。初のこと・見直すこと・先のことなど、インターンシップだからこそできることがきっとあります。私は実習のテーマとして、その時々にある「重要かつ不急」の根本課題を設定してきました。正解があるものを課題として与えるのではなく、答えがないものに学生と学生、学生と社員が協働し、成果を作り上げる。その過程で得られる学びや成長、会社の変化、横のつながりこそ、私たちがインターンシップを受け入れる目的です。きっかけは誰かの「なんとなく」でも、工夫しながら継続することで、計画的偶発生が生まれるのではないのでしょうか。



パブリックコース

取り組みを知ってもらうPRの機会にもなる

京都市役所 総合企画局総合政策室 大学政策担当 吉田 智彦

「大学のまち京都・学生のまち京都」を推進する京都市では、大学での学びの一環として教育プログラムの質の向上に繋がる、大学コンソーシアム京都のインターンシップの取組を重要であると考えており、本インターンシップの創設当初より多数の実習生を受け入れてきました。そして、実習生を受け入れることは、受け入れ側にも意味のあることだと実感しています。まず市の取り組みに対し、学生のリアルな目線から意見が聞けること。そして新しい価値観が入ることで、職場の活性化に繋がること。加えて、実習生を指導するためには、業務内容や全体のタスクを正確に把握する必要があるため、育成経験を通した若手職員の成長も期待できます。行政の仕事は広く市民の方に関わるものですが、その業務内容を知っていただく機会が乏しく、特に普段接点の少ない学生さんとなると尚更です。実習生の受け入れにはもちろん負荷もかかりますが、自分たちの取り組みを学生さんやその先におられる方々へPRする機会にも繋がるため、今後も続けていきたいと考えています。京都市としても、是非、多くの企業や団体の方々にご参加いただけることを願っています。



長期プロジェクトコース

目的を明確にすると受け入れやすくなる

関西巻取箔工業株式会社 取締役C.O.O 久保 昇平

“異分子”を入れることで、固定化された考えや視野を広げたい。それが、当社が受け入れを始めたきっかけでした。意図的にバックグラウンドの違う人を入れることで緊張感を生み、若手社員の仕事に対する意識向上を促す。そういった短期的な目的は、今のところ達成していると思います。中長期的には、実習生OB・OGが就職した先とビジネス関係になったり、転職先に当社を選んでもらったり、という繋がりの成果を期待しています。長期コースを選んだ理由は、せっかく受け入れるなら「仕事」というものの本質を学んで欲しいと考えたからです。経験のない学生に課題の解決や新しい企画の立案は難しい。それは当たり前のことですので、アウトプットのレベルは決めていません。一番大切なのは、「やりきった」という形・感覚を学生に持ってもらうこと。負担感が気になる場合は、目的を絞ってシングルイシューで募集されてみてはいかがでしょうか。



ビジネスコース / パブリックコース

早く行動することで将来への視野が広がる

同志社大学 文学部 2回生 谷口 一葉さん

夏休み中に価値になる経験をして、まだ就活に目を向けていない人と差をつけたいと2回生の時に受講を決意。これからの就職活動や興味分野について考える時間が多くとることができ、行く前よりもずっと視野が広がりました。興味がある業種での経験を通して将来が明確になったとしても、逆にこの業種ではないと思ったとしても、参加を決意すること自体に意味があると思います。



長期プロジェクトコース

多くの交流で鍛えられた社会人基礎力が自信に

京都先端科学大学 バイオ環境学部 1回生 重野 瑞季さん

長期プロジェクトコースは約5カ月間にも及ぶため、より実践的な学びを得られます。1回生での参加でしたが、常に新しい体験の連続で、一つ経験するたびに自身の成長が実感できました。同じ京都で学ぶ他大学の学生、京都の大学で教鞭をとる先生、京都の企業の方との交流によって鍛えられた社会人基礎力は、これからの自分の可能性を広げていく自信につながっています。



※「回生」は参加時のものです

加盟大学・短期大学一覧

● 国立大学

京都大学
京都教育大学
京都工芸繊維大学

● 公立大学

京都市立芸術大学
京都府立大学
京都府立医科大学
福知山公立大学

● 私立大学 短期大学

池坊短期大学
大谷大学
大谷大学短期大学部
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都外国語短期大学
京都華頂大学
華頂短期大学
京都看護大学
京都経済短期大学
京都芸術大学
京都光華女子大学
京都光華女子大学短期大学部
京都産業大学
京都女子大学
京都精華大学
京都西山短期大学
京都先端科学大学
京都橘大学
京都ノートルダム女子大学
京都美術工芸大学
京都文教大学
京都文教短期大学
京都薬科大学
嵯峨美術大学
嵯峨美術短期大学
種智院大学
成安造形大学
同志社大学
同志社女子大学
花園大学
佛教大学
平安女学院大学
平安女学院大学短期大学部
明治国際医療大学
立命館大学
龍谷大学
龍谷大学短期大学部
大阪医科大学
京都情報大学院大学
放送大学・京都学習センター



公益財団法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

インターンシップ事業推進室

● 9:00~17:00(日、月曜休館)

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る キャンパスプラザ京都内

※京都市営地下鉄、JR・近鉄「京都駅」から徒歩7分程度

TEL. 075-353-9106 FAX. 075-353-9101

E-Mail : intern@consortium.or.jp

<https://www.consortiumkyoto-internship.jp>

大学コンソーシアム京都 インターンシップ

